T. MURAI: The Mental Health Problems Confronting the Students in the College Environment

環境に対する大学生の適応状況(1)

津田塾大学 村 井 孝 子

I 序

全人教育の一環としての健康教育を効果的に実施するには、環境面の諸因子が学生に与える影響を考慮することが必要である¹⁾。最近、教育一般の問題として精神衛生に関心が示されているが、一つの大学においてこれをプログラムにのせるには、先づ、精神衛生の面においてどのような問題が、その大学の学生に共通なものであるかを知らなければならない。それは、学生が、大学生としての自己を確立し、周囲の人々或いは集団に順応し諸々の生活活動を遂げていく過程において生ずる問題をいうのである。精神衛生は、個人の独自の性質と周囲との間に生ずる軋れきをなくすということより、むしろ、あるがまゝの状況において、個々人がその人間性を十全的に成長させてゆくことができるようにすることを目的としており、又、周囲の事情が不合理な仕方では種々の障害となることがないようにすることに関心を払うのである。その為には学園、寮、その他、工場、村落等という特定の場所で生活する人々がその環境にどのように適応しているかということを知らなければならない。このような事情、即ち、適応状況がどのようにして客観的に把握できるかを試みるために、津田塾大学において昭和35年2月に大学生を対象として調査を行つてみた。以下にその方法、結果、批判を述べる。

II 研究方法

対象：津田塾大学の学生中、第一表に示す人員に対して調査した。一年生の全員、二、三年は全体の約半数づつである。

第一表

居 住	学 年	3	2	1	計
通学生	自 宅	38	40	66	144
	下 宿	21	9	21	51
寮	生	44	54	125	223
計		103	103	212	418

調査期日：昭和35年2月。尚、津田塾大学は女子の大学であり、都心を離れて武蔵野にあり、専門学科は、英文学、及び数学で学生総数は約900名である。

調査表：一年次学生中55名に対し、大学生として環境に適応していく過程において感じてきた種々の問題を、無記名で自由に記入させた。これを参照して問題を作成し第二表に示すように10の領域35の項目に分類した。本調査における記入は、調査表について趣旨を簡単に説明したのち15分間で行われた。

資料の整理：各項目の反応数を領域別、学年別、居住別にまとめ一覧表を作つた(第三表)。

第四表は各領域にわたつての反応数の分布を示すものである。反応率の高いもの、即ち、問題をもつ者が多い順に順位をつけ、便宜上更にA B C Dの四段階にわけた。

次に、項目別の結果を反応率の高いものから順にならべて、50%以上を第一段階とし、以下10%毎に区ぎつて6段階に分けて適応度を示すことにした。

学年別、或は、住居別の相違をみるために χ^2 テストで有意差の有無を見た。総反応数

第二表

環境に対する大学生の適応状況

() 学年 (東・西・北) 寮, 下宿 (いつから下宿したか), 自宅通学 (片道通学時間 時間 分)
次の項目のうち問題を感じている項目に○印をつけて下さい。「その他」の項目は具体的に説明して下さい。

目 項	○印記入欄	説 明 欄	目 項	○印記入欄	説 明 欄
1. 家族関係			共同生活における食事の量		
ホームシック			共同生活における料理の方法		
家族から独立したい			下宿の食事		
その他			その他		
2. 人生問題			7. 生活環境について		
自分の理想と現実社会のへだたり			通学時間が長い		
目標がない又は定まらない			交通機関の混雑又は不便		
目標と能力のへだたり			自分の時間不足		
職業と結婚			その他		
その他			8. 宗教問題		
3. 社会的順応			家の宗教と自分の宗教		
社会的劣等感			信仰を得たい		
共同生活 { サークル活動			キリスト教の洗礼について		
寮生活			その他		
一人になる時間を望む			9. 健康問題		
その他			運動不足		
4. 情緒的問題			疲 勞		
自分の感情の処理			スポーツをする時間		
友 情			スポーツをする体力		
愛 情 (異性間)			虚 弱		
その他			その他		
5. 学問・勉強の問題			10. 経済問題		
学校の選択			入学時と現在の家庭の経済状態の相違		
自分の目標と学問分野の選択			アルバイトの時間が無い		
学課目選択			アルバイトによる疲労		
その他			その他		
6. 食 生 活					
共同生活における食事の嗜好					

第三表

環境に対する大学生の適応状況

項 目		学 年 別				居 住 別 (下宿を除く)							
		学 年				I 学 年		II 学 年		III 学 年		平 均	
		I 学年	II 学年	III 学年	平 均	通学生	寮生	通学生	寮生	通学生	寮生	通学生	寮生
家 族 関 係	ホームシック	***,*** 31.2	*,** 19.4	*,** 9.7	22.5	0	42.4	0	29.6	0	18.2	SD	0 34.5
	家族から独立したい	14.6	*** 12.6	***,* 26.2	17.1	15.2	14.4	15.0	9.3	29.0	22.7	18.7	14.8
	その他	7.5	14.5	17.5	11.8	7.6	8.8	17.5	12.9	14.1	20.5	SD	11.3 12.1
人 生 問 題	自分の理想と現実社会のへだたり	31.6	26.2	29.1	29.6	28.8	33.6	30.0	24.1	29.0	31.8	29.2	30.9
	目標がない又は定まらない	38.2	43.6	39.8	40.0	45.5	32.8	52.5	38.9	44.8	41.0	SD	47.2 35.8
	目標と能力のへだたり	38.2	36.9	35.0	37.1	19.7	49.6	27.5	40.7	31.6	34.1	SD	25.0 44.4
	職業と結婚	***,* 24.5	*,*** 30.1	*,*** 48.5	32.9	27.3	24.8	27.5	33.3	47.4	54.5	32.6	32.7
	その他	0.5	1.0	2.9	1.2	0	0.8	0	1.9	0	6.8	0	2.2
社 会 的 順 応	社会的劣等感	25.5	23.3	20.4	23.7	28.8	24.8	20.0	18.5	18.4	22.7	23.6	22.9
	共同生活(サークル活動)	** 30.6	* 20.4	* 24.2	26.5	42.4	22.4	35.0	11.1	31.6	15.9	SD	37.5 18.4
	共同生活(寮生活)	***,* 29.2	* 17.5	* 18.4	23.6	0	45.6	0	33.3	0	41.0	SD	0 41.7
	一人になる時間を望む	37.7	31.1	33.0	34.9	10.6	57.6	17.5	44.4	29.0	36.4	SD	18.1 50.0
	その他	1.4	1.9	1.9	1.7	6.1	0.8	2.5	1.9	2.6	0	4.2	0.9
情 緒 的 問 題	自分の感情の処理	*** 51.5	43.6	* 38.8	46.4	53.0	49.6	47.5	40.7	42.1	41.0	48.6	45.5
	友 情	***,* 62.7	* 46.6	* 39.8	53.0	66.7	64.0	42.5	46.3	36.8	43.2	52.0	55.4
	愛 情 (異性間)	26.4	31.1	39.8	31.0	18.2	32.0	25.0	29.6	52.6	27.3	29.2	30.5
	その他	0	0	0	0	0	1.6	0	0	0	0	0	0.9
学 の 問 ・ 問 題 強 題	学校の選択	30.6	25.2	26.2	28.2	34.8	29.6	27.5	20.4	29.0	29.6	31.2	27.4
	自分の目標と学問分野の選択	57.5	56.3	52.5	56.0	48.5	61.6	47.5	62.9	50.0	45.5	48.6	59.0
	学課目選択	*** 17.5	*** 11.6	***,* 3.9	12.6	16.7	16.0	10.0	12.9	2.6	6.8	11.1	13.4
	その他	1.9	2.9	5.8	3.1	0	2.4	2.5	3.7	2.6	11.4	1.4	4.5
食 生 活	共同生活における食事の嗜好	***,* 29.7	*** 19.4	*,** 10.7	22.4	7.6	45.6	5.0	33.3	0	25.0	SD	4.9 38.5
	共同生活における食事の量	*** 16.5	12.6	8.7	13.6	3.0	24.8	0	22.2	26	18.2	SD	2.1 22.9
	共同生活における料理法	14.6	17.4	16.5	15.8	6.1	40.8	0	33.3	7.9	25.0	SD	4.9 24.6
	下宿の食事	3.3	1.0	5.8	3.4	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1.4	2.9	8.7	3.6	0	2.4	0	5.6	10.5	4.5	2.8	3.6
生 に 活 つ 環 境 で	通学時間が長い	21.2	22.3	27.2	23.0	63.6	0	55.0	0	68.4	0	SD	62.5 0
	交通機関の混雑又は不便	**,* 43.4	* 31.1	* 31.0	37.2	59.1	34.4	60.0	11.1	55.3	15.9	SD	58.3 25.1
	自分の時間不足	38.6	49.5	44.6	43.2	51.5	31.2	50.0	51.9	52.6	36.4	SD	51.3 37.2
	その他	6.1	2.9	4.9	5.0	3.0	8.8	0	5.6	5.3	0	2.8	6.3

宗教問題	家の宗教と自分の宗教	2.4	***3.9	***9.7	4.6	1.5	4.0	2.5	5.6	7.9	11.4	3.5	5.8
	信仰を得たい	21.2	23.3	19.4	21.3	21.2	18.4	20.0	24.1	15.8	22.7	19.4	20.6
	キリスト教の洗礼について	7.1	10.7	7.8	8.2	4.5	9.6	15.0	7.4	10.5	4.5	9.0	8.0
	その他	5.7	6.8	6.8	6.3	3.0	8.0	0	12.9	5.3	9.1	2.8	9.4
健康問題	運動不足	55.2	49.5	48.5	52.1	33.3	68.0	32.5	64.8	44.8	59.1	SD 36.1	65.5
	疲 勞	21.7	18.4	15.5	19.3	30.3	18.4	22.5	12.9	23.7	11.4	SD 26.4	15.7
	スポーツをする時間	31.1	25.2	28.1	28.9	30.3	32.0	22.5	27.8	36.8	27.3	29.8	30.0
	スポーツをする体力	***12.7	***5.8	**4.9	9.0	13.6	12.8	2.5	7.4	5.3	2.3	8.3	9.4
	虚 弱	**5.7	**12.6	**4.9	7.2	4.5	6.4	7.5	16.7	2.6	9.1	4.9	9.4
	睡眠不足	***18.4	***21.3	**29.1	21.8	18.2	16.0	22.5	22.2	31.6	25.0	22.9	19.3
	その他	0	0	0	0	0	2.4	0	0	0	0	0	1.3
経済問題	入学時と現在の家庭の経済状態の相違	9.4	7.8	10.7	9.3	4.5	11.2	0	11.1	14.1	11.4	SD 5.6	11.2
	アルバイトの時間が無い	12.5	10.7	8.7	11.1	6.1	16.0	5.0	14.8	10.5	9.1	SD 6.9	14.3
	アルバイトによる疲労	***5.2	***15.5	**15.5	10.4	9.1	2.4	25.0	9.3	15.8	9.1	SD 15.3	5.4
	その他	6.1	5.8	2.9	5.2	3.0	8.0	0	11.1	2.6	4.5	2.1	8.0

*, 一年生との間に有意差のあることを示す。 SD は寮生との間に有意差のあることを示す
 **, 二年生
 ***, 三年生
 (数字は百分率)

第四表 領域別反応率順位比較

段階	領域	全調査人員 418			通学生 144		寮生 223	
		順位	反応率 %	反応回数 (3824)	順位	反応率 % (1227)	順位	反応率 % (2163)
A	人生問題	1	15.27	584	2	15.72	2	15.06
	健康問題	2	15.13	579	4	15.07	1	15.52
	情緒的問題	3	14.30	547	3	15.24	4	13.67
B	社会的順応	4	12.08	462	6	9.69	3	13.81
	生活環境	5	11.85	453	1	20.53	7	7.07
	学問勉強の問題	6	10.94	418	5	10.83	5	10.72
C	食生活	7	6.43	246	10	1.71	6	9.24
	家族関係	8	5.65	216	8	3.58	8	6.33
D	宗教問題	9	4.42	169	7	4.07	9	4.52
	経済問題	10	3.92	150	9	3.50	10	4.02

第五表

項目別反応率順位表

		項 目			項 目
一 段 階	50% 以上	運動不足 自分の目標と学問の分野の選択 友 情	二 段 階	20%	通学時間が長い 信仰を得たい スポーツをする時間 スポーツをする体力 睡眠時間不足
二 段 階	50% }	目標がない又は定まらない 自分の感情の処理 自分の時間不足			
三 段 階	40% }	職業と結婚 目標と能力のへだたり 一人になる時間を望む 愛 情 交通機関の混雑又は不便	五 段 階	20% }	家族から独立したい 学課目選択 共同生活における食事の量 共同生活における料理法 アルバイトの時間がない アルバイトによる疲労 疲 勞
四 段 階	30% }	ホームシック 自分の理想と現実社会のへだたり 社会的劣等感 共同生活（サークル活動） 寮生活 学校の選択 共同生活における食事の嗜好	六 段 階	10% 以下	入学時と現在の家庭の経済状態 の相違 下宿の食事 キリスト教の洗礼について 虚 弱 家の宗教と自分の宗教

は、3,824で一人平均9.2コ〇印をつけていることになる。この分布を第一図に示す。

第一図

Ⅲ 結果と考察

第六表は、調査の結果を領域別にまとめたものである。この表から、大学全体として考慮すべき領域は、(人生問題)、(健康問題)で

あることが知れる。次に一般的な問題は(学問勉強の問題)であり、これら三つの問題に対しては、motivation の不足を補い、補導、相談等によつて或程度解決の道が開けよう。(社会的順応)と(情緒的問題)は、学年が進むにつれて適応度がふえているが、これは共同生活の効果によるものであろう。又、主として通学生が、(生活環境)を問題にしているのは、学校の地理的環境がその主要原因であると思える。(社会的順応)は、どちらかといえば、寮生の問題である。(家族関係)と(食生活)は、不適応度が低く、かつ、学年が進むにつれて問題をもつ人も減っているが、(宗教問題)と(経済問題)は、問題にする人は少ないが、学年と共に減っていない点が注目される。

項目別に調べてみると、年令と共に増加する割合を示すもの、家庭を離れて共同生活することの効果を示されているもの、居住別

第六表 領域別学年差、通学生・寮生差比較

対 象	段 階		A	B	C	D
	傾 向					
(1) 学 年 別 傾 向	比較的差が少ない		人生問題 健康問題	学問勉強の問題		宗教問題 経済問題
	項目によつて適応度がふえるものと減るものがある		情緒問題	生活環境		
	学年がすすむと概して適応度がふえる			社会的順応	家族関係 食生活	
(2) 通 学 生 寮 生 差	両方とも大体同じ適応度をましている		健康問題 人生問題 情緒問題	学問勉強の問題		経済問題 宗教問題
	どちらかといえば通学生の問題			生活環境		
	どちらかといえば寮生の問題			社会的順応	家族関係 食生活	

に問題差が示されるもの、或いは、学年別居住別に関係なく遍在するものなどの種々な項目に分類される。第三表及び第七表により（家族から独立したい）（ホームシック）（結婚と職業）（愛情）など年令的成長の面からいつて当然と思える傾向を示している。

（寮生活）（ホームシック）（友情）（一人になる時間を望む）（自分の感情の処理）（生活環境）（共同生活における食生活）等の項目は、いづれも学年がすすむにつれて適応度が著しく増加している。共同生活をとおして maturity に到達する過程が示されていると思える。

通学生と寮生の間に顕著な差がみられる項目が三つある。まづ愛情であるが、寮生は、一年 32% で、学年毎に減るが、通学生は、一年 18%、二年 25%、三年は 52.6% と一年の 3 倍近くの者が問題を感じている。（目標がない又は定まらない）では通学生の間にきわだつて問題が多く、（目標と能力のへだたり）では、反対に寮生の間に多い。これを学年差に

おいて 検べると、前者は、一学年の通学生は 19.7% で寮生は 49.6% であるが、通学生は学年毎に増し寮生は減つてゆき、三年では殆んど同じく 30% 余りになつている。後者は、通学生はいづれの学年も 45% 以上で、寮生は、上級生の方が、少しづつ問題を多くもち、32.8% から 38.9%、41.0% になつてきている。この三つの項目は、直接環境と関係を有するものではないので、更に考慮を要するところである。

学年差がないのは、（自分の目標と学問分野の選択）というのであるが、これは反応率も高く、日本における大学教育のあり方という見地から考えなければならない問題であると思う。（学校の選択）は反応率はずつと低いけれど、学年差がみられずやはり同じようなことが関連していると見てよい。（運動不足）は、通学生よりも寮生に多く、全体としても、運動に対する欲求が強く示されている。三年では、通学生の反応率が急に高くなつてい

る²⁾。これには色々な理由、例えば、高校

第七表 項目別、学年差、通学生・寮生差比較

対象	段階		1	2	3	4	5	6
	傾向	附						
学 年 別	学年が進むにつれて問題をもちものがふえる			自分の時間不足	職業と結婚 愛情	すいみん時間不足	アルバイトによる 疲勞(二年から) 家族から独立した い(三年から)	家の宗教と自分の 宗教
	学年が進むにつれて問題をもちものが減る	友 情		自分の情感の処理	交通機関の複雑さ たは不便(二年から)	ホームシック 共同生活における 食事の嗜好 スボーツ(二年から) サークル活動 (同上) 家 生 活	学科目選択 共同生活における 食事の量	
	学年差が少ない	自分の目標と学問 分野の選択 運動不足		目標がない又は定 まらない	目標と能力のへだ たり 一人になる時間を のぞむ	自分の理想と現実 社会のへだたり 社会的劣等感 学校の選択が長い 通学時間を得たい スボーツをする時 間	共同生活における 料理の方法 疲 勞 アルバイトの時間 がない	キリスト教の洗礼 について 下宿の食事 入学時と現在の家 庭の経済状況 (二年だけ多い)
(1) 通学生・寮生別	問題を感じる者が通学生に多い			目標が定まらない 又は自分の時間不足	交通機関の複雑 は不便	サークル活動 通学時間が長い	アルバイトによる 疲 勞	入学時と現在の家 の経済相違
	問題を感じるものが寮生に多い	運動不足			目標と能力のへだ たり 一人になる時間を のぞむ	ホームシック 寮生活における 食事の嗜好	共同生活における 食事の量 ク食事の料理法 アルバイトの時間 がない	
	(1)の中で学年毎に問題を感ずるものがふえる	通学生	運動不足 (三年のみ)		目標と能力のへだ たり 一人になる時間を のぞむ		アルバイトによる 疲 勞 (二年生に多い)	
		寮 生					アルバイトによる 疲 勞	
	(1)の中で学年毎に問題を感ずるものが減る	通学生				サークル活動	疲 勞	
		寮 生			目標と能力のへだ たり 一人になる時間を のぞむ	ホームシック 寮生活における 食事の嗜好 (二年のみ) 共同生活における 食事の嗜好		
(2)								

時代に運動を余りしなかつたこと、施設が割合に充分であること、体育への理解が深められること、学業等が忙がしくて運動ができにくいこと等が考えられる。

(その他)の項目には次のような問題が含まれている。

家族関係—家族間の不和、病気、世代意識の差等。

人生問題—価値判断、結婚、就職等。

社会的順応—自分の性格、対人関係等。

情緒的問題—人間関係等。

学問勉強の問題—勉強方法、試験の失敗、劣等感等。

食生活—栄養不足、時間不規則等。

生活環境—騒音、個室が欲しい等。

宗教問題—宗教の本質、結婚と宗教、信仰と生活。

健康問題—不眠症。

経済問題—適当なアルバイトが欲しい、家の経済等。

IV 結 語

津田塾大学における一年、二年、三年の学生 418 名を対象として調査研究をした結果、適応状況についての問題点及び諸傾向が明白にされた。即ち、各領域について、全対象、通学生、寮生別に反応率順位を決定し、更に、四段階にわけた。又、各項目を全被調査人員の示した反応率により六段階に分類をした。この順位及び段階を基準として、領域別及び項目

別に、学年差、居住別差についての比較を行って、夫々学年毎に適応度がましてくるもの、減ってくるもの、学年差、居住別差の少ないものなどが表示された。これは、このグループに属する一員としての個人の状況を考える一つの基点となりうるものである。又、大学が、グループ討議や個人面接を行う場合、この調査によつて示された傾向が、学生個人個人にとって有利な場合であるのか、或は、不当な handicap になつているのか等の参考点を見出す一つのがかりともなり得ると思える。通学生と寮生の比較を行うことにより、此の調査の信頼度を認めることができた。即ち、(学問勉強の問題)(家族関係—ホームシックを除いた場合)、(人生問題)、(健康問題)、(経済問題)、(宗教問題)は、ほぼ同じ反応率を示している。

この種の調査は始めてであり、比較する調査資料も見出されず、現在の状況を知るのに役立つのみである。同じ学生を進学する度に調査して変遷をみること、或いは、他の大学に同様の調査を試みて比較するなどして更に意義深い結果を得るように努めたいと考えている。

参 照

- 1) E. Berchet: Int. Jour. Health Educ., 3, 16, (1960).
- 2) 津田塾大学においては第三学年次に於いて体育の授業を週一時間実施している。

Mental Health Problems Confronting the Students in the College Environment

By

T. Murai; Tsuda College

In order to find a method of measuring mental health, a study was made on the relationship between students and their university environment, using an inventory devised for that purpose. The study included 418 college women of different school years. All the answers were checked and calculated for each of 35 items and also for each of ten areas. Their percentages were listed in Table 3, and served the basis for the ranking of areas and of items of the whole subjects in Tables 4 and 5. The two tables, Tables 6 and 7, were prepared to show the tendencies of their mental health problems according to the school years and also to the two different residential groups.

A Study on Mental Health of High School Boys and Girls from the Viewpoint of Suicide (3)

By

A. Kawabata, & K. Takagi; Kyoto University

A. Katsube; Nagoya University

A comparative study between group A (those who have attempt) among 999 of senior (second grade) boys and girls was conducted to investigate how such factors as personality, environment, are related to their suicidal attempts.

In the first report, emotional instability and social maladjustment were noticed in group A as to the personality difference, and no marked difference was discriminated as the environmental difference observed in family construction in this study.

In the second report, there were some relations among environment, family status, personality and their suicidal attempts, but no relations with economical status of their family.

In this report (3), there were several problems to investigate etc. which has remained in (1)~(2) reports, and as result, there were a pretty difference between group A and group B.